

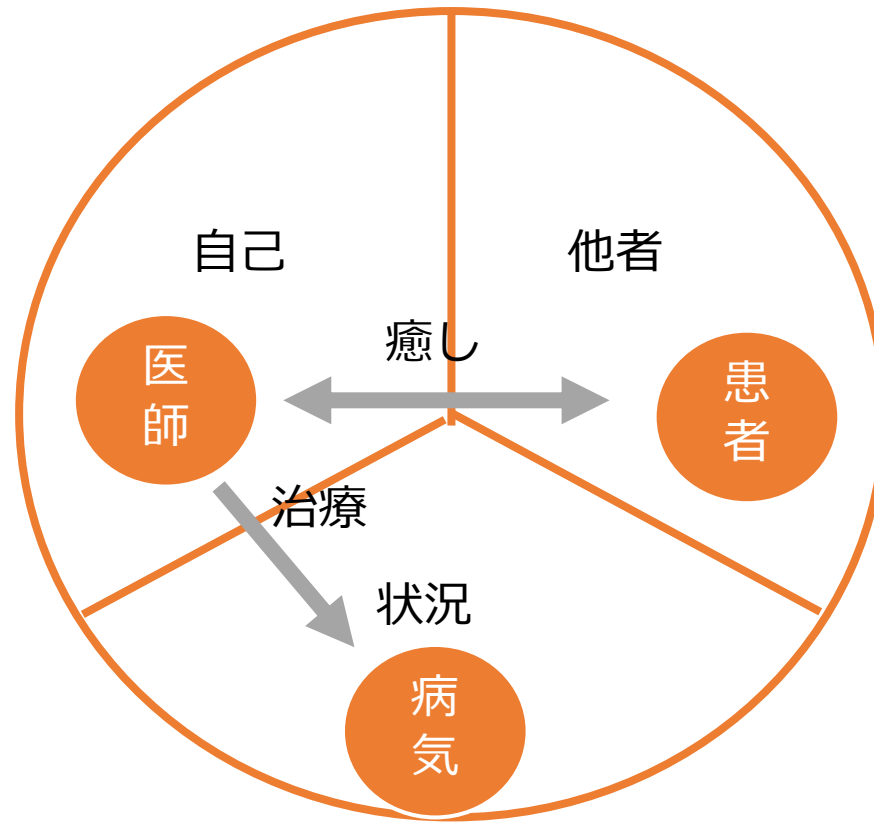


日本 Whole Person Care 研究会
Whole Person Care Association Japan (WPC-J)

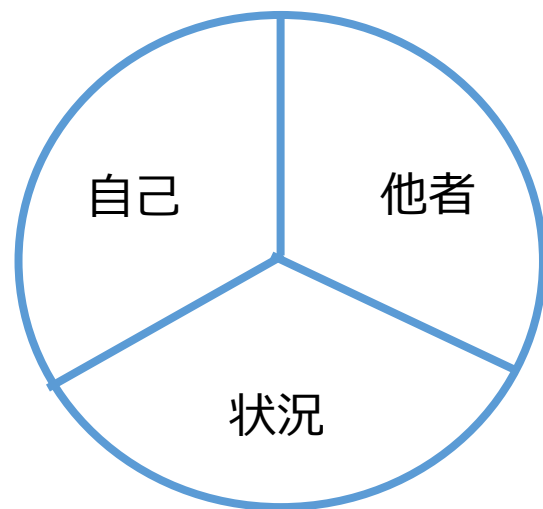
Whole Person Care の 視点

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科
くらしき総合診療医学教育講座
三好智子

臨床的な調和

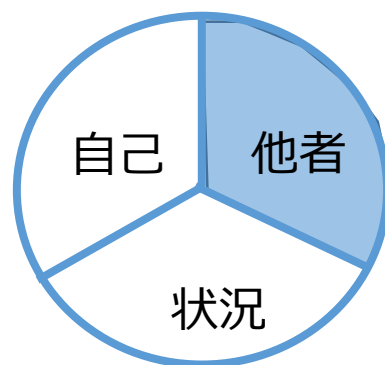


コミュニケーションの態度

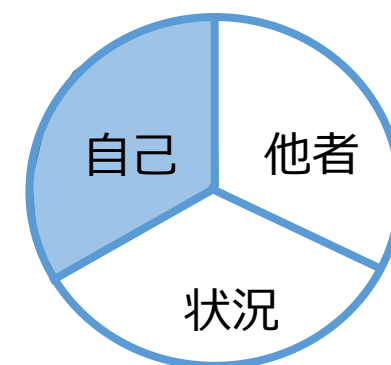


調和のとれた態度

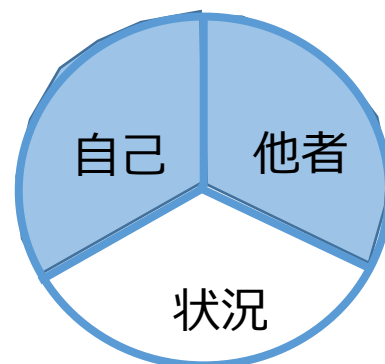
非難の態度



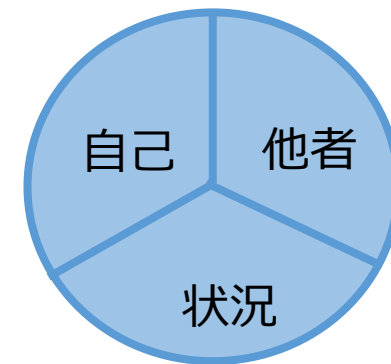
懇願の態度



超理性的な態度



不適切な態度



Whole Parson Care の過程

Whole Parson Care の特有の目標： 苦悩を和らげること

第 1 段階	診断を明らかにする Clarify the Diagnosis	患者から病気を切り離し、 <u>一人の人間として問題がないと伝えること</u>
第 2 段階	患者の視点から予後を明らかにする Clarify the Prognosis: The Patient's Perspective	「患者は <u>何を脅威と感じているのか</u> 」を確認し、「将来、どうなっていくか」を正確に判断
第 3 段階	病気を治療する Treat the Disease	患者と共に <u>治療方針に関する話し合い</u> に労力を惜しまない
第 4 段階	癒しの関係を築く Create a Healing Relationship	<u>一人の人間として大切にされる支援が常に必要</u> である 癒しの過程において患者が変化し成長するために支援を必要としている

役割理論＞ 病人役割・医師役割

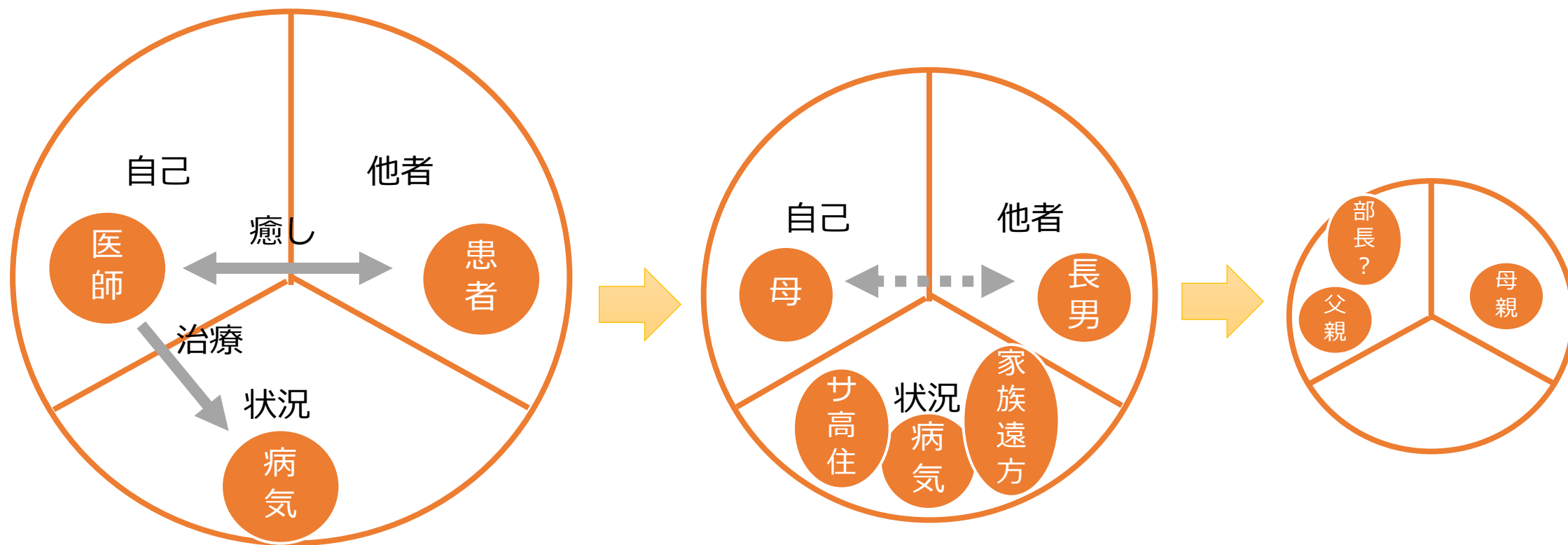
Parsons (1978) による理論

病気になると、通常期待されている役割を果たすことができなくなる。

病人は、単に普通の役割を遂行することを免除されるだけでなく、病人として果たすべき役割が新たに付与される。

	病人役割	医師役割
権利	通常期待されている役割の免除	患者の身体に触れたり私的な情報を獲得したりする
	自らの力で回復することを要請されず、病気に対する責任が問われない	患者が医師を比較することを禁じることと通して、信頼を確保する
義務	回復しようとする	自己利益ではなく <u>患者の健康回復を優先させる</u>
	医師の援助を求め、 <u>医師に協力する</u>	専門知識と技術を習得し更新し続ける

医師の役割、Aさんの役割



自己覚知に基づく自己ケアのモデル

